

桶屋 善一 -Okeya Zenichi-

「障がいが重いから無理」と言われたが…、

1954年、宝達志水町生まれ。生後間もなく脳性麻痺にかかり、手足、言語に障害を持つ。1985年に「青山彩光苑」に入所。以後、32年に渡り、障がい者機関紙「H S K 季刊わたぼうし」を編集・発行。2008年より車いすにカメラを取付け、市内のバリアフリー状況取材する。

6歳から全寮制の障害児施設や特殊学級、養護学校高等部にて学ぶ。簿記との出会いにより税理士の夢を持つが、周囲から「障がい重いから無理」と言われ、身体障害者更生指導所から授産施設へ。単純作業の毎日に無希望の生活を送る。

1983年、自宅に戻った桶屋は、同年に開催される「七尾わたぼうしコンサート」の実行委員たちと出会い、世界が広がる。会報の発行を任せられ、和文タイプで紙面を作る。施設入所者・在宅障がい者・健常者が交流し、情報交換が出来る場を作った。

1985年、新設の青山彩光苑に入所。現在に至るまで、障がいのある人、ない人、主義・主張を超え、共に生きる社会を作ることを目指し、毎年欠かすことなく発行を続けている。詳しくはインターネットで【H S K 季刊わたぼうし】と検索して下さい。

【お問い合わせ】

桶屋善一（青山彩光苑利用者）
E-mail:zen@san.net
七尾市青山町ろ部22番
☎767-57-3309